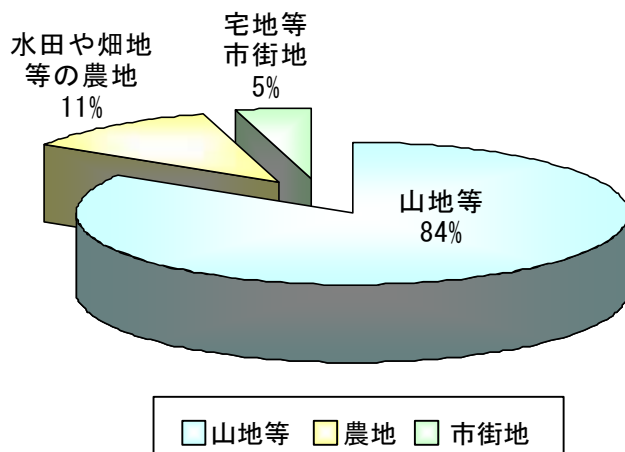


3 流域の社会状況

3-1 土地利用

流域内の土地利用は、山地等が約 84%、水田や畑地等の農地が約 11%、宅地等市街地が約 5%となっている。



単位：km²

調査基準年	流域面積	市街地	農地	山地等
平成7年度	650	29.4 (5%)	74.5 (11%)	546.1 (84%)

※流域面積から農地と市街地の値を引いて山地等の値を算出している。
山地等には山林、竹林、原野等を含んでいる。

図 3-1 大分川流域の土地利用面積

(出典：河川現況調査 (調査基準年：平成7年度末))

3-2 人 口

大分川流域内の人口は、昭和50年から平成7年までに約35%の増となっており、大分県の人口増（約3%）を大きく上回っている。これは、下流部に位置する大分市の人口の増加が主要因である。

なお、“大分川流域の人口”の“大分県の人口”に占める割合は概ね20%程度である。

表 3-1 大分川流域の人口の推移と人口密度

項目 年	大分県		大分市		大分川流域			
	総数 (人)	人口密度 (人/km ²)	総数 (人)	人口密度 (人/km ²)	総数 (人)	大分川流域総人口の大分県総人口に占める割合(%)	大分川流域総人口の大分市総人口に占める割合(%)	人口密度 (人/km ²)
昭和45年	1,155,566	182.3	260,584	722.0	—	—	—	—
昭和50年	1,190,314	182.3	320,237	887.3	186,968	15.7	58.4	287.6
昭和55年	1,228,913	182.3	360,478	998.8	209,412	17.0	58.1	322.2
昭和60年	1,250,214	182.3	390,096	1,080.8	235,772	18.9	60.4	362.7
平成2年	1,236,942	182.3	408,501	1,131.8	250,533	20.3	61.3	385.4
平成7年	1,231,306	182.3	426,979	1,183.0	252,808	20.5	59.2	388.9
平成12年	1,221,140	182.3	436,470	1,209.3	—	—	—	—

(出典：国勢調査、河川現況調査)

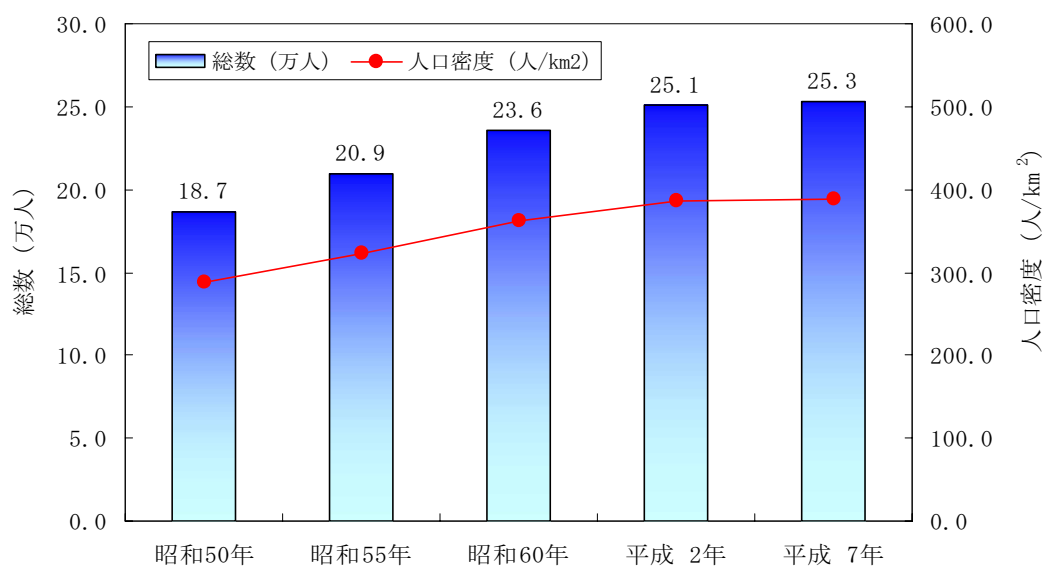


図 3-2 大分川流域の総人口との人口推移

(出典：河川現況調査)

また、大分川の想定氾濫区域内の人口密度は1平方キロメートルあたり約3,600人と九州の一級河川の中で最も高く、下流部の大分市の人口が想定氾濫区域内人口の約98%を占めている。

「2010 大分市総合計画 第2次基本計画 大分市」によると、今後、大分市の人口は、増加傾向にあると予測されているため、大分川の想定氾濫区域内の人口は増加していく傾向にある。

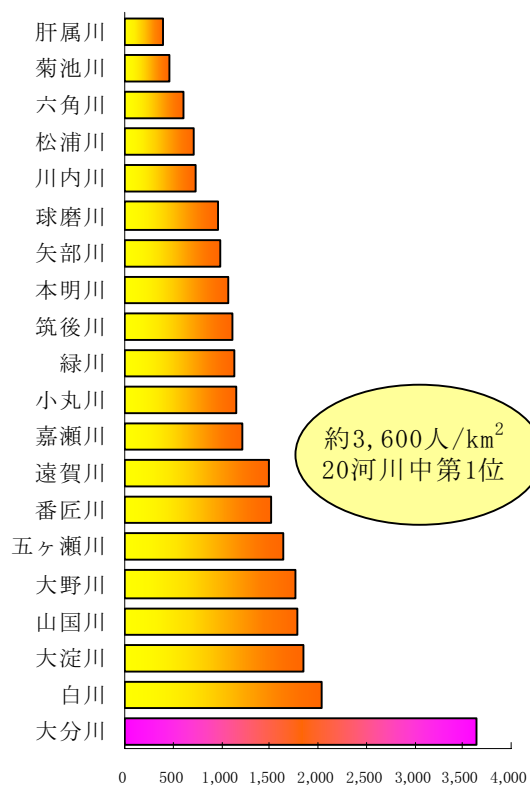


図 3-3(1) 想定氾濫区域内人口密度

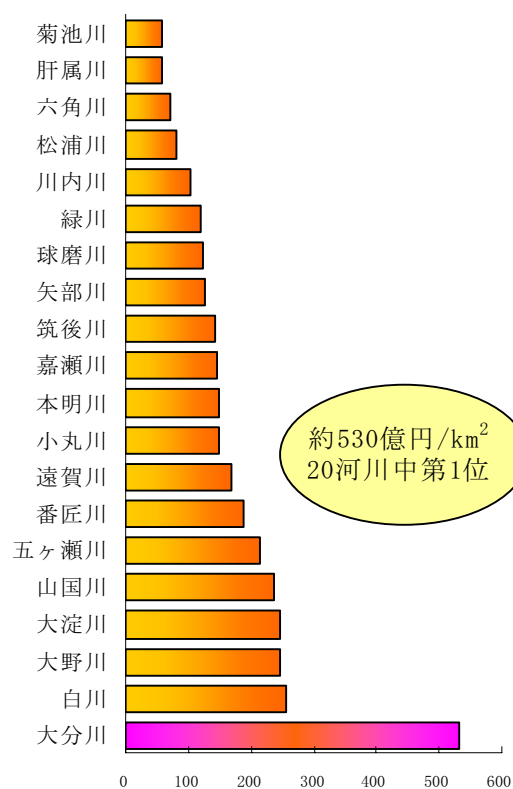


図 3-3(2) 想定氾濫区域内資産密度

(出典：第7回 河川現況調査 (平成7年度末))

3-3 産業経済

大分川下流部に位置する県都大分市は、昭和 39 年に新産業都市に指定され、社会、経済、文化の中核的役割を担っている。一方、大分川上流部は、由布院温泉、長湯温泉等が阿蘇くじゅう国立公園、神角寺芹川自然公園等の公園緑地、歴史、資源と有機的に結び、流域内の観光の活性化を担っている。

流域内における就業者総数は新産業都市に指定されてから増加傾向にあり、昭和 50 年から平成 7 年の産業別の構成で見ると、第一次産業が約 1/3 に減少しているのに対し、第二次産業が微増、第三次産業が全体の 72% 程度と大幅に増加している。

また、流域内の製造品出荷額は増加傾向、農業生産額は減少傾向となっている。

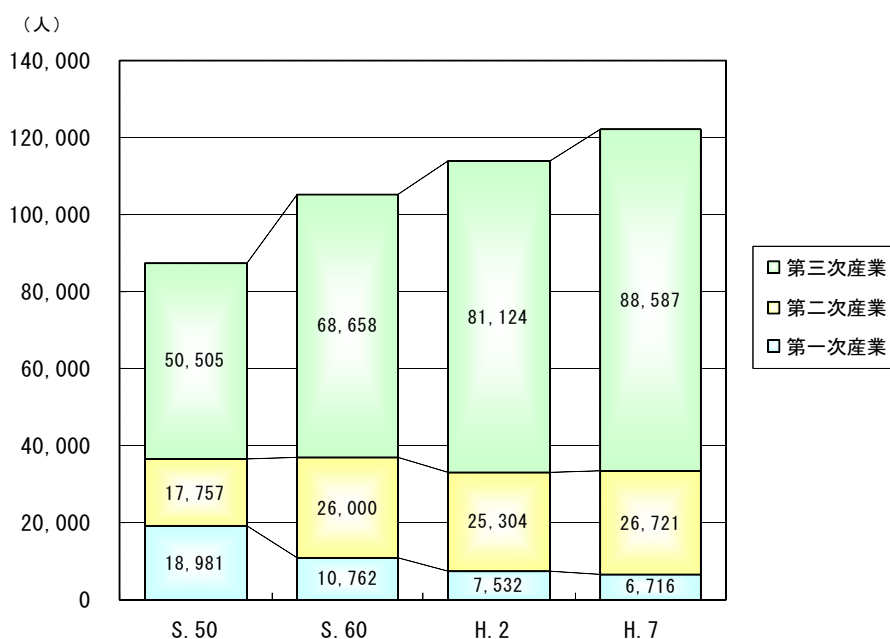


図 3-4 大分川流域の産業別就業者数の推移

(出典：河川現況調査)

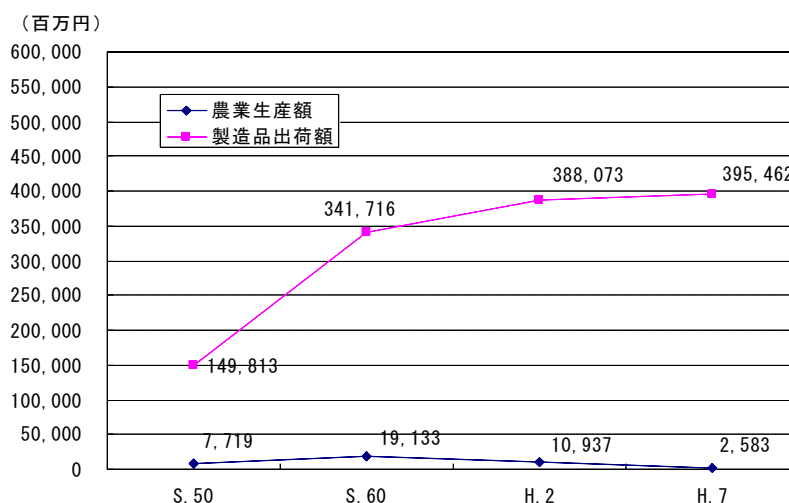


図 3-5 大分川流域の農業生産額・製造品出荷額の推移

(出典：河川現況調査、工業統計表)

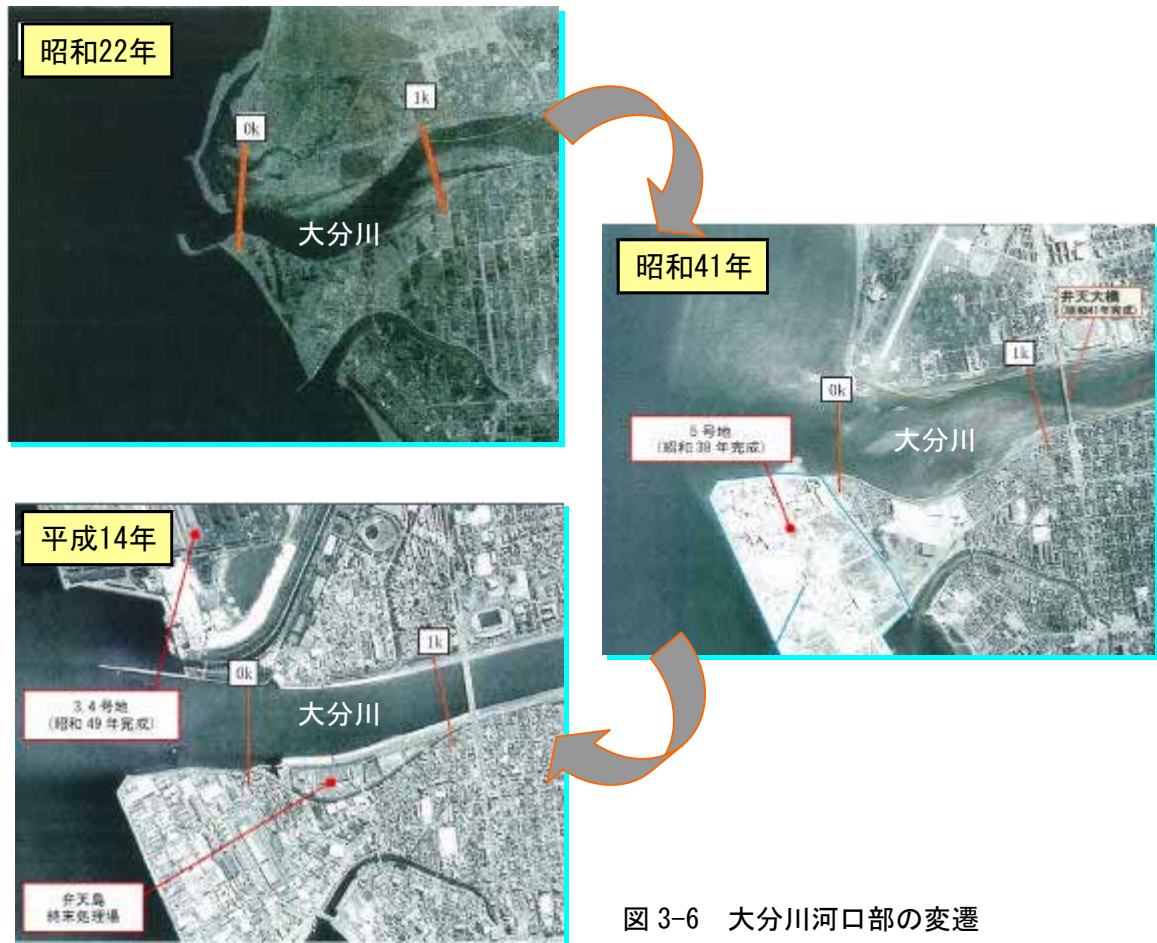
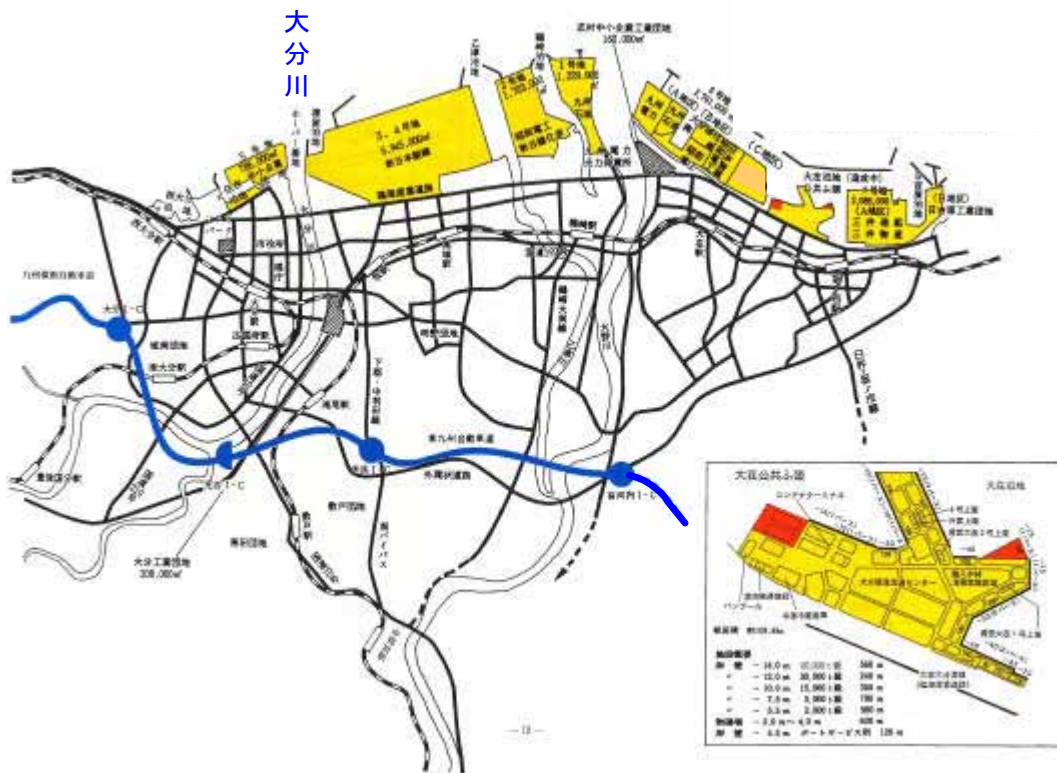


図 3-6 大分川河口部の変遷



(出典：大分市における新産業都市建設の状況 2000
大分市企画部総合企画課)

図 3-7 新産都指定による工業用地の位置図

3-4 交通

大分川流域は、ほぼ九州中央部の東側に位置し、下流部に県都である大分市があり、東九州の動脈と西九州とを結ぶ動脈である道路、鉄道の交通網が交差して、九州地方の物流の要衝となっている。

高速道路は、大分と福岡を結ぶ大分自動車道が整備され、大分、湯布院の利便性が増すとともに、幹線道路として国道10号、国道210号、国道442号、国道197号が走っている。特に国道210号は、流域内を大分川に添って東西に走り、大分と日田、福岡を結ぶ幹線道路として産業、経済へ大きな役割を果たしている。

鉄道は、福岡、宮崎、鹿児島を結ぶJR日豊本線と、大分と熊本を結ぶJR豊肥本線が大分川下流部を通過しており、また、福岡県久留米市と大分市を結ぶJR久大本線は、大分川と併走しながら流域内を東西に横断している。

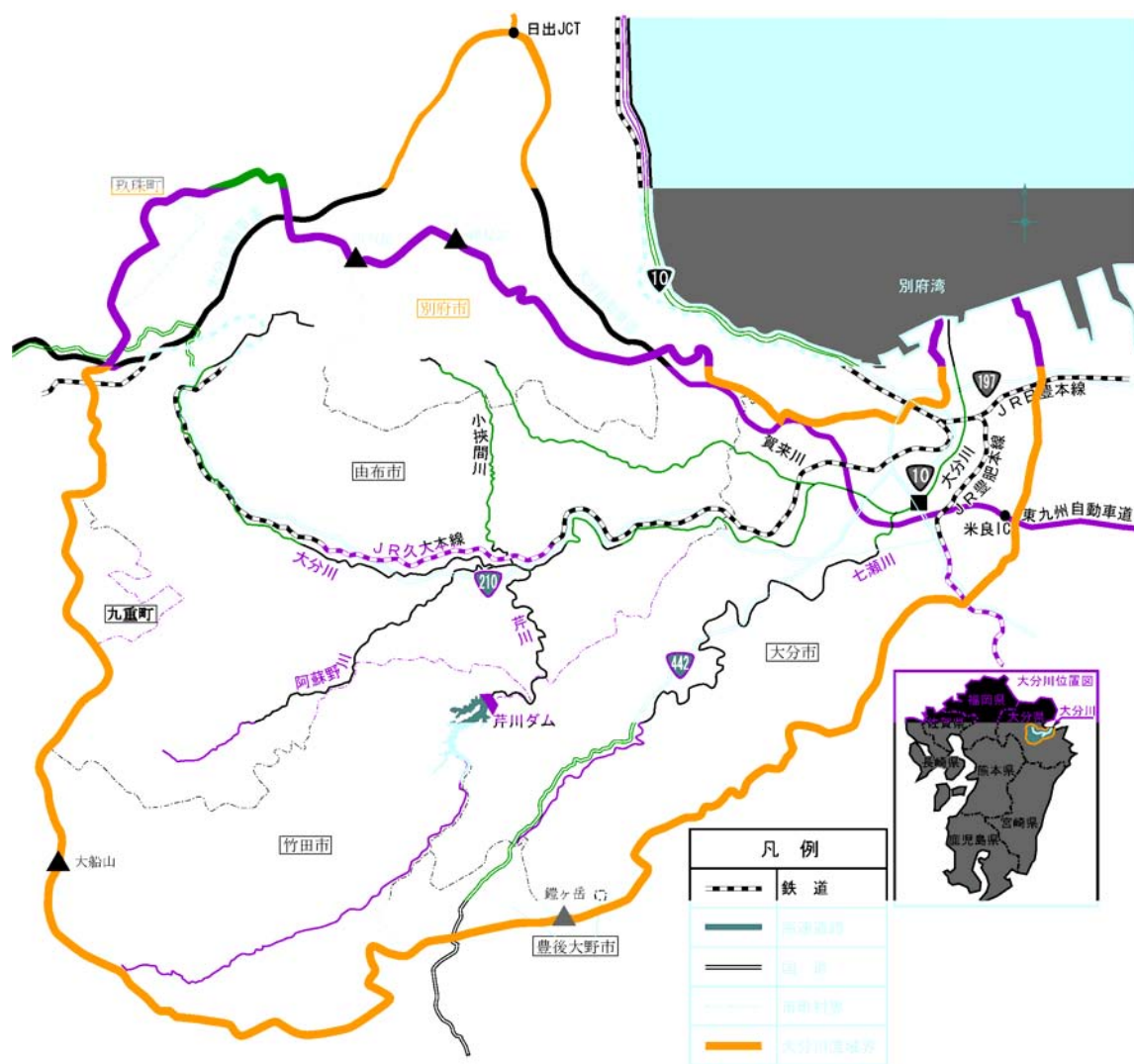


図 3-8 交通網図

3-5 流域の動向

大分県では、地域づくりの目標として「おおいた新世紀創造計画」を策定し、県内の各地域の自然や文化、社会特性や住民の生活実態等を踏まえたうえで、各地域が持つさまざまな課題に対応した施策を実施し、地域の発展を図っていくことを目的として、6つの圏域計画を位置づけている。大分川流域では、「都市機能の集積と快適な生活空間の形成で大分の未来を担う高次中核都市圏」として『大分臼津圏』、「文化と産業が共生しあふれる自然が人々を招く名水田園都市圏」として『大野直入圏』が設定されている。

表 3-4 大分川水系に関わる主要施策

圏域名	大分川水系に関わる主要施策
大分臼津圏	<ul style="list-style-type: none"> ・大分川ダムの建設促進 ・大分川、大野川、末広川等の環境に配慮した河川改修や土砂災害防止対策の推進 ・大分川ダムを中心とした新たな観光資源開発 ・大分川流域ヘルシー観光ルートや北あまべ広域観光ルートの充実
大野直入圏	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境に配慮した河川整備と既存の親水空間の活用促進



※平成 17 年 10 月 1 日時点の市町村合併に伴い、一部加筆修正

図 3-9 流域の将来動向